



胃カメラや大腸カメラの検査を受けていますか？

内視鏡技師 岩下ますみ、加藤敦子、浅沼晴美、大塚桃子

男女を問わず、死因の上位に「胃がん」と「大腸がん」が挙げられています。これらのがんは定期的な検査を受けていれば、命を落とすことはありません。しかし、検査は苦痛を伴うものであり、なかなか気が進まないのが現状です。

近年は医療技術が進み、内視鏡による治療が増えることで、胃カメラや大腸カメラの需要が増加しています。この胃カメラや大腸カメラのことを「内視鏡」と呼んでいます。現在では内視鏡の直径が細く改良され、さらに鎮静剤を使用することで身体への負担が少ない検査が可能となっています。

ところで、皆さんは「内視鏡技師」をご存じでしょうか？ 内視鏡技師とは、内視鏡に関する知識を習得し、認定を受けている人のことです。日本消化器内視鏡学会のガイドラインでは、医師と内視鏡技師で検査を行うことが推奨されています。医療従事者であれば内視鏡検査に携わることはできませんが、当院では現在4人の内視鏡技師が検査に携わり、患者さんが安全で負担が少ない検査を受けられるよう、日々頑張っています。



内視鏡検査スタッフの皆さん



(右から)鉛筆:8.0mm、胃カメラ経鼻:5.9mm、胃カメラ経口:10.8mm、大腸カメラ:11.8mm

協力隊がゆく 56

こんにちは、日本遺産担当の西澤です。

10月3日から1カ月

間、週末限定のイベント

「B4RS(ライダーに朝食を)」を、うかん常山

公園で開催しました。う

かん常山公園は有漢インター

チェンジに近く、奥吉備街道

沿いに位置していることか

ら、車やオートバイで気軽に

立ち寄ることが出来ます。

このイベントは、訪れる人

の1日を明るく笑顔と温かい

朝食で迎えたいという願いを込めて

企画したものです。加えて、せっか

く観光客が訪れても食事をできる場

所が少ないのは申し訳ないという気

持ちや、どうせなら楽しい会話を通

じて高梁をより知ってもらいたいと

いう思いもありました。

期間中は、深い霧に包まれる午前

7時30分から10時30分まで、続々と

訪れるお客さんの特製トルティーヤ



西澤昌代 隊員

と飲み物(ハロウインの日はメキシコ料理「ピニャータ」)でお迎えし、多くの笑顔に出会いながら、お客さんとの会話からより良い町づくりに繋がる多くのヒントをいただきました。

また、日本自動車連盟(JAF)による交通マナーランキングでワースト10に入る岡山県の運転手の交通マナーを憂い、高梁警察署の協力のもと、白バイ隊員が運転時のポイントなどを親しみやすいトークを交えながら説明し、場を盛り上げていただきました。

地域の自慢の公園を使って、お客さんをお迎えする私たちの気持ちを個性として体現できたことや、住民主体で取り組むことでお金をかけなくともイベントを開催できたことを嬉しく思いますし、今回のイベントをきっかけに、さらに高梁の輪が広がっていくことを期待しています。

